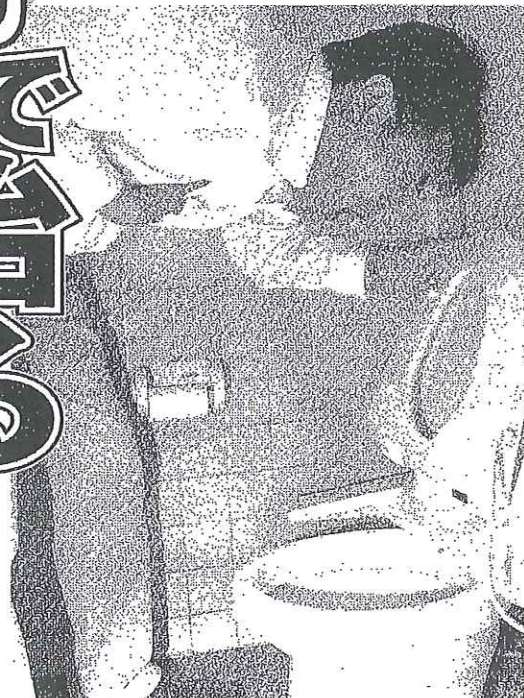


# 10人に1人が苦しむ 大腸がんの腸閉塞

大腸がんは、早期にはほとんど症状が表れず、がんが大きくなり、便が詰まって初めて気づくということが少なくない。そうなってからの緊急手術では、人工肛門を余儀なくされ、生活が大きく制限される。そんな厄介な事態を免れるために威力を発揮しようなのが大腸ステントだ。東邦大医療センター大橋病院外科・齊田芳久准教授に聞いた。

## 筒で治る



腹。パン。パンで1カ月出なかった人もスルッ

吐き気があっても便は出ない

40歳のMさんはかねて便秘で、便が1週間出な

なかつた。しかし、2週間、3週間とまったく出におかしい」と受診した

る心配がなく、腹とときは、腹がパンパンに膨らんできた。そ

リンパ節のほか、肝臓と肺にも転移していた。「この方は糖尿病があつて、過去2カ月の平均的

吐き気があっても便は出ない

この男性は、大腸がんの狭窄が解消。抗がん剤治療を受け、経過は順調

大腸がんの手術をするための前処置として、大腸ステントを留置することができたのです」

大腸ステントは、金属製の網目状の筒。大腸が腸をふさいでいると、そこにトンネルのように内張りして、通り道を確保する医療器具だ。内視鏡で挿入でき、患者の肉体的負担が少ないのが大きな利点だろう。

大腸ステントを留置すると、すぐに便がスルスルと出て、腹痛や吐き気などの症状は解消し、手術の死亡率は15〜20%とスレ、などで

### 2,3日で普通に食事でき、1週間の入院で済む

普通食ができて、入院された待機手術の死亡率から、十分な実績がある期間は1週間ほど、この期間は0.9〜0.6%だから、医療機関で治療を受ける処置を手術で行うと、人のこの差は無視できない。ことが重要だ。そうすれば、人工肛門になる恐れがグンと下がり、入院期間3週間以上、どちらが患

重篤な合併症

大腸穿孔がある

人工肛門になる恐れ

間も短縮でき、快適な生活を送れるのだから。